

(トップページ：<http://members3.icom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(サウジアラビア：<http://members3.icom.home.ne.jp/3632asdm/SaudiArabia.html>)

マイライブラリー：0179

アラビア半島定点観測

(写真語るシリーズ)サウジ国王衰えたり



上の写真は去る5月10日にサウジアラビアのリヤドで開かれたGCC 6カ国首脳会議(サミット)の時のものである。右から順に UAE のムハンマド副大統領兼首相(ドバイ首長)、バーレーン・ハマド国王、サウジアラビア・アブダラー国王、オマーン・ファハド副首相、カタール・ハマド首長及びクウェイト・サバーハ首長である。UAE とオマーンは No.2 が出席した。

GCC サミットは毎年12月に各国持ち回りの定例会議があるが、今回は「中東民主化革命」の嵐がアラビア半島にも波及した事態にどのように対処するか話し合うために急遽開かれたものである。バーレーンでは騒乱を鎮圧するためにサウジアラビアと UAE からなる GCC 治安部隊が派遣されており、GCC 各国元首の危機感は強い。

この写真で人目を引くのは前かがみで杖を手にする弱々しいアブダラー国王の姿である。国王は昨年秋にニューヨークで椎間板ヘルニアの手術を受け今年2月にモロッコでの療養を切り上げて帰国したばかりである。その後椅子に座ったまま拝謁を受ける姿がニュースで報道されているが、このような杖をついた立ち姿の写真が海外に広く配信されたのは多分今回が初めてであろう。

1923年生まれと言われる国王は今年で88歳の高齢である。他の GCC 各国首脳の生年はそれぞれサバーハ・クウェイト首長1929年、カブース・オマーン国王(スルタン)1940年、カリーファ・UAE 首長1948年、ハマド・バーレーン国王1950年、ハマド・カタール首長

1952年である。クウェイト首長との年齢差はさほど大きくないが、その他の元首とは17～29歳の隔りがある。各国首脳と年齢を比較すればアブダラー国王が際立って高齢であることがわかる。

アブダラー国王の衰えが目立ち、同国の世代交代が迫っていることは間違いない。スルタン皇太子も80歳代前半の高齢で心臓の持病がある。国民の誰しもが現在の王位継承順位に懸念を持っているのは確かである。しかしサウジアラビアではサウド家が絶対的な権限を持ち、しかも一族のなかに未だ多くの異母兄弟がいるため、国王と言えども公の場で後継者問題を語ることはタブーである。今のサウジアラビアは内外に多くの問題を抱えている。国内ではシーア派教徒や若者による王制批判の動きがくすぶり、対外的にはシーア派イランとの対立、或いはGCC内部では台頭するUAE、カタールとの軋轢などの問題がある。

老いさらばえた痛々しい国王の姿が苦悩するサウジアラビア王国の姿と二重写しになる。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

拙稿「迫るサウド家の世代交代」参照

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0162SaudRoyalFamily2010.pdf>